

第2章

命を守る

豪雨による被害を少しでも抑えるために、消防団、住民、市職員など多くの人が「命を守る」ための活動を行いました。そのときに現場では何が行われていたのでしょうか。

1 市災害対策本部での活動

7月3日14:22に大雨警報（土砂災害）が発表されたことから、西予市災害対策本部を設置し、早めの避難等の呼びかけの注意喚起の放送や自主避難を呼びかけました。その後、7月4日08:28に警報が解除されたことから、災害対策本部を廃止しました。

しかし、7月5日09:14に再び大雨警報（土砂災害）が発表され、再び西予市災害対策本部を設置し、第一配備体制をとりました。総括班は防災気象情報等の収集及び避難所開設に向けた事前準備を開始。情報受信班と情報整理班は本庁舎5階



市災害対策本部統括指令室



対策実施のための調整

の大会議室を本部統括指令室として、防災気象情報等の情報収集・整理業務に努めました。7月7日08:02には職員全員に参集メールを送付。第二配備体制とし、さらに警戒を強めました。

7月8日になると、09:30に第1回、17:15に第2回の災害対策本部会議を開き、対策実施のための調整等を行いました。その後も定期的に会議を開催し、11月8日までに会議の開催は計23回にもなりました。この本部会議の参加者は、本部長（市長）、副本部長（副市長、教育長）、本部員（総務企画部長、生活福祉部長、産業部長、建設部長、医療介護部長、会計管理者、議会事務局長、教育部長、消防長）を基本に、その時々への対応や対策に関する職員も参加。各支所はweb会議により参加しました。

各支所では、7月5日09:14の市災害対策本部の設置を受け、現地災害対策本部を設置。支所長が本部長、支所総務課長補佐が副本部長となり、災害対応にあたりました。

防災行政無線を使用して、西予市の各町に注意喚起を実施し、避難所の開設後は周知放送を行いました。

7月6日17:55には肱川沿いの住民に避難の呼びかけを放送。7月7日05:10には避難指示の発表にあわせて野村の該当地区を戸別に訪問し、避難誘導等の対応にあたりました。

甚大な被害を受けた野村町の災害対応を強化するため、7月10日には、本庁から現地出身の課長級職員2名を、そして7月13日には災害対策本部副本部長である副市長を野村現地災害対策本部に派遣しました。

2 消防団による事前の水防活動

大雨警報（土砂災害）が発表された7月5日の09:14に、消防団でも水位などの状況を把握しながら、注意喚起の広報を実施。団員は自宅待機ながらも警戒を強めました。

7月6日10:55には土砂災害警戒情報も発表されたことから、団本部や明浜、三瓶は参集し、活動を開始しました。13:40、肱川（宇和川）の水位が神領の水位観測所で消防団待機水位2.5mに到達。宇和と野村は警戒巡視し、土のう対応等を行いました。午後から夜にかけては雨も少し弱まっていたが、満潮時刻である翌01:54前には団長が三瓶港を巡視しました。

その後、また雨が強まりを見せ、02:30に氾濫注意水位3.0m、02:50に避難判断水位3.3m、03:20に氾濫危険水位3.5mに到達したことから、各町の消防団は出動し、巡視しながら土のう対応や排水作業、避難補助を開始しました。

03:40に宇和町宇和地区へ避難勧告が発令された後は、対象地域の住民に対して避難誘導や避難補助を実施。また、天候や状況に注意しながら倒木撤去や土砂撤去などを行いました。

その後も、緊急搬送のためのドクターヘリや船



警戒巡視による溢水箇所の確認(明浜町宮野浦)



警戒巡視及び土嚢対応(宇和町久枝)

船の手配や現地災害対策本部の支援、物資運搬、避難所補助などの活動を実施しました。



土嚢積み(明浜町俵津)

3 避難活動

7月5日09:14に大雨警報（土砂災害）が発表されて以降、警戒体制をとるなかで、7月6日10:55に土砂災害警戒情報が発表されました。これを受けて、11:30には野村町、城川町に避難所を開設。避難情報を発令するかの協議を行いました。

松山地方気象台からの降雨予想をはじめ、防災情報提供システムや川の防災情報（国土交通省）、愛媛県河川砂防情報システムなどの防災気象情報をふまえながら、避難情報のうちの「避難準備・高齢者等避難開始」に近い意味合いとして、避難所の開設を伝え早めの自主避難を呼びかけました。その後、午後には雨はだんだん弱まってきました。

しかし、7月7日未明から、雨はまた強くなり、02:32には、洪水警報、大雨警報（浸水害）が発表されました。

宇和町宇和地区では、03:20には水位周知河川である肱川の神領観測所で氾濫危険水位である3.5mに到達。あらかじめ決めてあった「避難勧告等の判断・伝達」に関する取り決めて、避難勧告の発令基準だったこともあり、避難所の開設を進めながら03:40に宇和町宇和地区の全域へ避難勧告を発令しました。

野村町野村地区では、02:30に野村ダム管理所長から、このままでいくと異常洪水時防災操作は避けられない。06:50頃に操作を開始する予定との連絡を受けました。

ダムからの異常洪水時防災操作が開始されれば、川の水位が急激に上昇し氾濫する恐れがあり、避難が遅れると命にかかります。

しかし、時は真夜中。暗闇のなかでの移動は危険も伴います。しかも雨が降り、道路や水路、河川などが分かりにくい状況で移動することは決して安全とは言えません。

災害対策本部では、03:30に緊急理事者協議を開催し、避難対象地域の設定、避難所の増設、消防団による避難の声掛けを行うための体制構築など、住民避難を円滑かつ安全に行うための体制構築に早急に取り掛かるよう指示し、05:00から05:30を目処に野村地区に避難指示を発令することを決定しました。

その後、避難者の増加に対応するため、野村小学校・野村中学校の避難所増設、消防団による巡回準備体制の完了等を受け、05:10に避難指示を発令し、防災行政無線、消防・消防団車両による避難広報を行うとともに、より確実な避難誘導のために消防団員による戸別訪問による避難の呼びかけを行いました。



7月7日 05:38時点の肱川（野村町野村）

避難勧告等の発令状況(7月5日～8月24日まで)

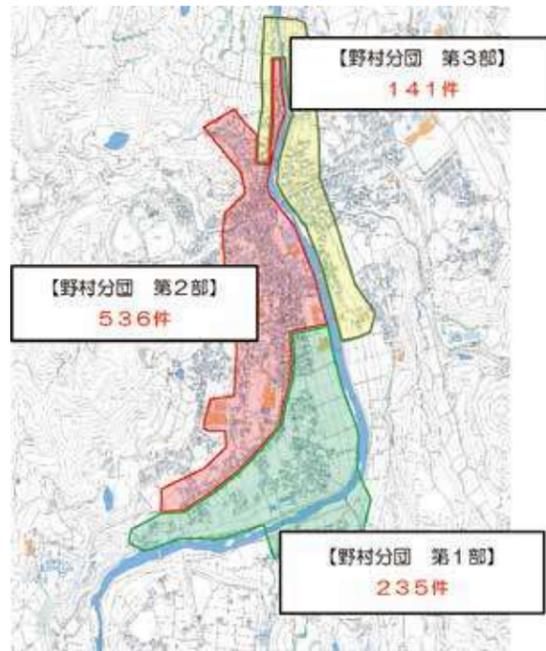
| 発令月日時間 | | 避難情報名 | 発令理由 | 対象区域 |
|--------------|-------|------------------|-------------|----------------------|
| 月日 | 時間 | | | |
| 7月5日 7月6日 | - | 注意喚起放送・自主避難の呼びかけ | 早めの避難等の呼びかけ | 西予市全域 |
| 7月7日 | 03:40 | 避難勧告 | 肱川氾濫の恐れ | 宇和町宇和地区 |
| 7月7日 | 05:10 | 避難指示(緊急) | 肱川氾濫の恐れ | 野村町野村地区 |
| 7月7日 | 08:20 | 避難指示(緊急) | 肱川氾濫の恐れ | 宇和町宇和地区 |
| 7月7日 | 08:20 | 避難指示(緊急) | ため池決壊の恐れ | 宇和町宇和地区 伊賀上の一部 |
| 7月7日 | 08:20 | 避難指示(緊急) | 米博擁壁崩壊の恐れ | 宇和町宇和地区 卯之町二丁目の一部 |
| 7月8日 | 10:05 | 避難指示(緊急) | 土砂災害の恐れ | 宇和町石城地区 岩木の一部 |
| 7月9日 | 19:00 | 避難指示(緊急)解除 | — | 宇和町宇和地区 |
| 7月9日 | 19:00 | 避難指示(緊急)解除 | — | 野村町野村地区 |
| 7月10日 | 21:15 | 避難指示(緊急) | 土砂災害の恐れ | 宇和町明間地区の一部 |
| 7月12日 | 17:26 | 避難指示(緊急) | 土砂災害の恐れ | 野村町栗木の一部 |
| 7月13日 | 10:27 | 避難指示(緊急) | 土砂災害の恐れ | 城川町遊子川地区 南平の一部 |
| 7月14日 | 20:00 | 避難指示(緊急)解除 | — | 宇和町宇和地区 伊賀上の一部 |
| 7月21日 | 14:30 | 避難指示(緊急) | 土砂災害の恐れ | 野村町河西の一部 |
| 7月28日 | 15:00 | 避難準備・高齢者等避難開始 | 大雨注意報発表 | 西予市全域 |
| 7月30日 | 08:30 | 避難準備・高齢者等避難開始解除 | — | 西予市全域 |
| 8月3日 | 14:30 | 避難指示(緊急)解除 | — | 城川町遊子川地区 南平の一部 |
| 8月6日 | 16:00 | 避難指示(緊急)解除 | — | 宇和町宇和地区 卯之町二丁目の一部 |
| 8月15日 | 11:02 | 避難準備・高齢者等避難開始 | 大雨注意報発表 | 西予市全域 |
| 8月16日 | 16:09 | 避難準備・高齢者等避難開始解除 | — | 西予市全域 |
| 8月23日 | 08:30 | 避難準備・高齢者等避難開始 | 大雨注意報発表 | 西予市全域 |
| 8月24日 | 07:30 | 避難準備・高齢者等避難開始解除 | — | 西予市全域 |

夜も明けてきた05:10、野村町野村地区に避難指示（緊急）を発令し、流域のサイレン、スピーカー、防災行政無線、広報車などで緊急の避難を呼びかけました。雨音などにより、サイレンや防災行政無線が聞こえない可能性もあるため、避難指示（緊急）の発令と、避難の必要性を確実に伝えるために、消防団が中心となり対象地区の約900戸を訪問。住民へ避難を促しました。その間も激しい雨は降り続き、肱川上流にある西予市宇和観測所では、07:30に347.0mmの24時間降水量を観測。これまでに経験したことのない、観測史上1位を更新する数値でした。

そして06:20には野村ダムの異常洪水時防災操作が開始され、その後しばらくして肱川が氾濫しました。消防団等による懸命な避難誘導も及ばず、5人の方が亡くなりました。

08:20には、避難勧告を出していた宇和町宇和地区にも避難指示（緊急）を発令。同時に、ため池決壊の恐れにより宇和地区伊賀上へ、擁壁崩壊の恐れにより宇和地区卯之町二丁目へ、それぞれ避難指示（緊急）を発令しました。

09:00頃には、ようやく雨も弱まりを見せましたが、これまでに降った雨の影響もあり、土砂災害発生の危険性が高まりました。7月8日10:05には、宇和町岩木地区の一部に避難指示（緊急）



7月7日野村地区洪水に係る消防団の避難誘導活動エリア

を発令。引き続き土砂災害への警戒を強めながら、7月10日21:15には宇和町明間地区の一部、7月12日17:26には野村町栗木の一部、7月13日10:27には城川町遊子川地区南平の一部に危険の恐れがある場所に避難指示（緊急）を発令し、危険箇所からの避難を呼びかけました。



避難誘導活動(野村町野村)

4 救助・救急活動

消防署には、7月7日の未明から数多くの通報が寄せられ、その対応にあたりました。

7月7日03:36には、宇和町東多田を警戒中の消防職員が、河川の増水で沈下寸前の橋を発見し、対岸に住む住民に避難を呼びかけ、橋にロープを渡して救出しました。

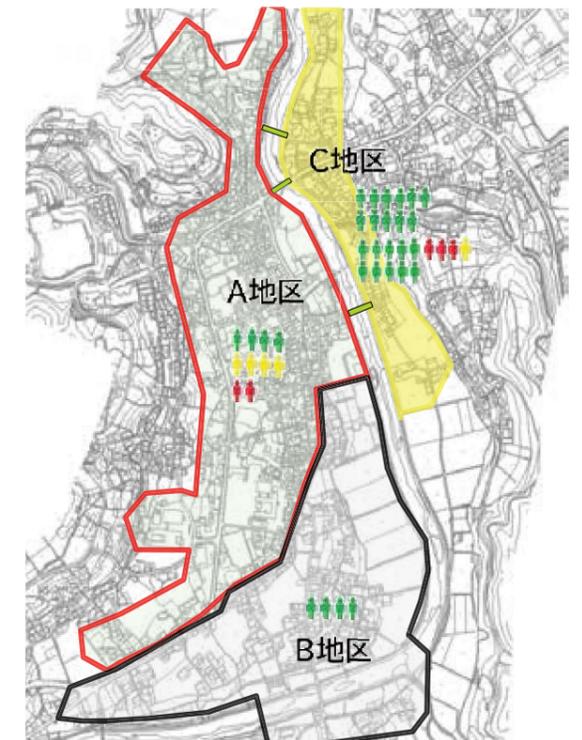
04:35には、「宇和町伊延西で河川氾濫により孤立した集落で土砂崩れが発生」という通報があり、消防署員は付近の住民など16人の救出にあたり、全員を無事救出しました。

07:40には、城川町下相の住民から「自宅横の川が増水し危険な状態だが、身体が不自由で動けない」という通報があり、担架に乗せて救出しました。

08:30には、「明浜町高山の県道宇和高山線で土砂崩れが発生して車両2台が孤立している」という通報があり、重機により土砂を取り除き、無事に救出しました。

08:50には、「宇和町卯之町五丁目の冠水した駐車場の車両2台に人が取り残されている」との通報を受け、現地へ駆けつけて運転手2人を救出しました。

消防署と消防団は協力し、避難指示（緊急）が発令された宇和町宇和地区や野村町野村地区などを消防車両で巡回。対象地域の住民に対して避難



7月7日 野村町野村洪水に係る避難状況(浸水時)
(赤色：死者、黄色：消防が救出した人数、緑色：生存者)

を呼びかけながら、住宅の床上・床下浸水等によって自力避難が困難な住民を救出するなど、避難活動を支援しました。

7月5日から7日までに救急・救助を含む出動は73件にのぼり、救助されたのは47名。ただ、周辺の被害等により、すぐに救助に行くことができなかった場所もありました。

7月7日 野村町野村地区洪水に係る発生地区別避難状況(浸水時)

| 発生地区 | 対象地区内人口 | 地区内残留者 | 消防が救助した人数 | 孤立者 | 避難状況 | |
|------|---------|--------|-----------|-----|------|----|
| | | | | | 生存者 | 死者 |
| A地区 | 1,922 | 10 | 4 | 6 | 4 | 2 |
| B地区 | | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 |
| C地区 | | 25 | 1 | 24 | 21 | 3 |
| 合計 | | 39 | 5 | 34 | 29 | 5 |

注1：対象地区内人口とは、6月末日現在の住民基本台帳による
注2：地区内残留者とは、消防の呼び掛け後に、浸水地区内に残留していた人数
注3：孤立者とは、洪水により消防が救助に行くことができなかった人数

消防団の災害に係る出動状況(7月6日～7月7日)

| 月日時間 | 気象情報 通知等 | 団本部 | 明浜 方面隊 | 宇和 方面隊 | 野村 方面隊 | 城川 方面隊 | 三瓶 方面隊 | | | | | |
|--------------|-------------------------------------|---|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|---|-----------------------|------------------------|----------------|--|--|
| 7/6 | 10:55 土砂災害警戒情報発令 | 出動時間 13:00 参集待機 3人 (正副団長) | 出動時間 13:00 参集待機 2人 (正副隊長) | 出動時間 14:00 警戒巡視 土嚢対応 183人 | 出動時間 14:00 警戒巡視 土嚢対応 125人 | 出動時間 13:00 参集待機 63人 | 出動時間 14:00 | | | | | |
| | 13:40 肱川(宇和川)水防団待機水位2.5m到達 | | | | | | | 17:00～ 自宅待機 | 17:00～ 警戒巡視 土嚢対応 | 16:00～ 自宅待機 | | |
| | | | | | | | | 20:00～ 副団長 自宅待機 | 19:30～ 自宅待機 | | | |
| | | 22:00～ 団長巡視 | | 21:30～ 自宅待機 | | | | | | | | |
| 7/7 | 01:54 三瓶港満潮時刻 | 01:30～ 団長巡視 | | | | | 00:00 警戒巡視 (正副隊長) | | | | | |
| | 02:30 肱川(宇和川)氾濫注意水位3.0m到達 | | | | | | 出動時間 02:30 警戒巡視 土嚢対応 排水作業 避難誘導 避難補助 176人 | | | | | |
| | 03:20 肱川(宇和川)氾濫危険水位3.5m到達 | 03:30 副団長参集 待機 3人 (正副団長) | 04:30 正副隊長参集 | 出動時間 03:30 | 出動時間 03:30 | 03:30 正副隊長参集 | 魚成分団 土嚢対応 | | | | | |
| | 03:40 避難勧告(宇和地区) | 出動時間 04:50 警戒巡視 排水作業 土嚢対応 詰所待機 153人 | | 避難誘導 避難補助 土嚢対応 346人 | 避難誘導 避難補助 土嚢対応 322人 | 警戒巡視 土嚢対応 排水作業 倒木撤去 土砂撤去 181人 | 出動時間 05:00 | | | | | |
| | 05:10 避難指示(野村地区) | | | | | | | | | | | |
| | 06:20 野村ダム放流量439m ³ /s | | | | | | | | | | | |
| | 06:40 野村ダム放流量1,408m ³ /s | 12:00～ 警戒巡視 排水作業 土嚢対応 物資運搬 避難所補助 | | | ～17:00 副分団長以上 拠点施設待機 | 16:30～ 詰所待機 | 13:00～ 自宅待機 (各部団員) | | | | | |
| | 06:43 野村三島橋越水野村地区浸水 | | | | | | | | | | | |
| | 08:20 避難指示(宇和地区) | | | | | | | | | | | |
| | 11:50 野村ダム放流量469m ³ /s | | | | | | | | | | | |
| 19:04 洪水警報解除 | 20:00～ 自宅待機 | 19:00～ 自宅待機 | 19:00～ 自宅待機 | 副分団長 以上 | 17:00～ 拠点施設待機 | 17:00～ 自宅待機 | 18:00～ 自宅待機 (正副隊長) | | | | | |
| 出動人員 合計 | 6人 | 155人 | 529人 | 447人 | 244人 | 176人 | | | | | | |
| 総合計(2日間) | | | | 1,557人 | | | | | | | | |

C O L U M N
野村ダムに関する住民向け説明会

平成30年7月豪雨における野村ダムと西予市の対応について、市と野村ダム管理所との共催による住民説明会を平成30年8月9日19:00から野村中学校体育館で開催。約700人が参加しました。

冒頭、今回の水害で亡くなられた方々への黙とうを捧げ、その後、野村ダム管理所長から当時の降雨量の状況と野村地域を含む肱川流域における被害状況、そして野村ダムの放流操作と市への情報提供について説明がありました。

続いて、市総務企画部長から野村ダムからの放流などに関する情報提供を受け、どのような判断や対応をしたのかについて、それぞれ説明しました。

質疑応答では、参加者から「操作規則が間違っていたのでは」、「もっと早くから放流できなかったのか」、「放流に対して被害の想定はなかったのか」、「避難指示を早く出せなかったのか」などの意見や質問があり、野村ダムからは「操作規則に基づき、ぎりぎりまで洪水調整を行っていたが、今まで経験したことがない大雨が短時間に降り、大量



亡くなった方々に黙とう
(広報せいよ2018年10月号より引用)

放流をせざるを得なかった」との回答がありました。

市は「放流量に対して浸水想定判断材料がなかった」、「避難指示のタイミングについては、深夜の大雨の中での避難移動による2次災害を回避するためにも消防団による誘導や避難所の体制を整える必要があった」など回答をしました。



野村ダムに関する住民向け説明会(広報せいよ2018年11月号より引用)

避難に関するアンケート結果

① 避難の状況について

- 今回の大雨で土砂災害の危険を裏山から流れてくる大量の雨水で実感しました。高齢の両親の説得ができず自宅にとどまったのですが、安全な場所へ早目に避難すべきだったと思います。(宇和町)
- 妻を避難所に避難させ、一人ダム放流の家の近くに水が来るまで居たのですが、避難する時の準備物等については日本赤十字を通じて研修を行っていたので、対応することができた。車を2台とも高台に持って行ったのは正しかったと思う。とにかく川の増水に恐怖を感じた。隣近所の声のかけ合いは安心感をもたらした。(野村町)
- 近所の80代女性が一人で暮らしているのを知っていたので、7日の7時頃、川の増水があり車で避難所に連れて行った。その後地元の消防団に連絡し移動したのを伝えた。(城川町)

② 情報伝達に関することについて

- 市内以外の場所(特に吉田地区)の道路交通情報が得ることができず、移動することができなかった。防災無線での情報は市内のみであった。停電したためテレビから情報が得られなかった。早い段階ではインターネットに情報がアップされていなかった。(明浜町)
- 消防団の方が避難指示で回ってもらったのに、ここは大丈夫だと思いこんだ事がだめだと思いました。(野村町)

③ 日頃の備え

- これからは何かがあるかわからないし、色々な面でも地震など災害が起きた時の準備はしておきたいと思います。(宇和町)
- 災害時、持ち出しの袋の中を点検しておけばよかった。(野村町)
- テレビの報道でもあるように、災害時の空き巣被害が心配で、家を空けるのが怖い。(三瓶町)

避難の様子

土砂災害に家が巻き込まれた中で感じた不安

兵頭 修さん 宇和町明間



7月7日の朝6時くらいに、ものすごい雨が降っていたのを覚えています。家の横に溝があるのですが、その水が溢れかえっていて、そこから家の床下に水が流れ込んできていました。すごい雨が降るなど思いながらも家から外の様子を見ると、家の裏山が崩れてきました。「これはやばい!」と思い、家族全員でまずは家から外に出て避難したところ、私の家に土砂が流れ込んできました。まさしく間一髪でした。

自分たちの車はもう土砂に埋まり出すことが出来なくなったので、親戚を呼んで家に迎えに来てもらい、避難所へと向かいました。避難所に行く

までに車の中から外を見て、あちこちの山が崩れていたのを覚えています。

近所の小学校の体育館が避難所になっていましたが、同じ地区の人たちはみんな避難しており、その後3日間は避難所で過ごしました。

私の住んでいる地域は道路の寸断により孤立化したので、仕事にも行けず、これからの生活がいったいどうなるのかと、とても不安でした。災害はいつどこで起きるのかは分かりません。皆がいざという時のために備えておくことが重要だと思います。

避難誘導

消防団による必死な全戸訪問が多くを救う

大田 信介さん 西予市消防団副団長(当時野村方面隊長)



7月6日の日中の段階から警報が発表されたので、消防団は各地で巡回活動を行いました。次第に降水量も減り、夕方には自宅待機になりました。その時点では、特に大事にはならないかなと思って自宅で過ごしていました。そうしていたところ、7月7日早朝に野村支所から参集の電話が入りました。急いで駆けつけると、ダムの放流があるとのこと。放流量や今後の対応のことを聞いて、直感的に「これはやばいな」という感覚を持ちました。

その後、野村地区の消防団員全員を参集し、浸水想定エリアの全戸を訪問して避難を促すことを決めました。はじめは皆あまり緊張感がなかったのですが、ダムの放流のことや避難誘導の呼びかけのことを説明し、全員ライフジャケットを着用して回れと指示を出したときには、消防団員の目つきが変わり、部屋全体が緊張感に包まれました。私は消防団員の安全を守る立場にあります。「自分の命は自分で守り、危険な行動はするな」と命令し、消防団員を送り出しました。全戸訪問は消防署と連携して対応し、河川近くの要所要所に見張りをたてていただき、越水の情報は逐一支所にも連絡をいただいていたので、その情報を団員に伝え、また付近に団員がいる場合には、危険だから避難するように指示を出しました。

現場は分単位で状況が変わりましたので、それに合わせてどう対応すべきかを判断することが求められました。正直、あのときの野村支所内はピリピリした雰囲気なんてものではありません。まさに戦場のような状況でした。

私の心境としては、現場に出て、現地の状況で自分の目で見てみて指揮をとりたいという想いでしたが、いつどのような情報が入ってくるかわからないので、支所に入ってくる情報を受けて判断することが求められる状況で、ジレンマとの戦いでした。野村支所の前まで水がびちゃびちゃと浸水してきたときには、ここまで水がきたのかと不安が更に高まりました。消防団員や住民は全員逃げてくれと、祈るような思いでした。

最終的に全団員の無事が確認できたときには、野村方面隊長として安堵しましたが、街中がひどい状況になっていたのも、息つく暇もなく、その対応に追われました。団員たちには申し訳なかったのですが、すぐに瓦礫撤去を指示しました。発災後10日間くらいは多くの団員に連続で活動してもらいました。消防団の中には建設業、林業、農業などいろんな職業の人がいるので、その能力を活かして対応してくれました。

心残りは亡くなられた住民の方がいるということです。本当に残念です。消防団としては亡くなられた方も含めて自宅にいらっしゃった全ての方に直接、避難誘導の声掛けを行っていますので、消防団の立場としてはやりきったという想いもあります。

消防団員にとって、野村は自分達の生まれ育った町です。ほとんどの町の人とは顔見知りなので、使命感を持って行動してくれたのだと思います。地域のことを想って活動してくれ、改めて本当に頼もしい団員だと誇りに思います。